

台風15号被害から半年 おいしい茶を作り続ける 復興への思い強く

静岡市内

「清く豊かな水があるから、おいしいお茶が生産できる。今年もこの地でお茶を作り、魅力を発信していきます」と、より強い思いで春作業に励むのは、静岡市清水区中河内の「清照由苑」代表の鈴木照美さん(63歳、茶1・3珍、ワサビ3珍など)。静岡県を中心に記録的な大雨をもたらした昨年9月の台風15号災害からまもなく半年。農地への土砂流入など大きな被害を受けたが、復旧・復興へ歩みを進めている。

清照由苑 鈴木 照美さん

支えの大切さ 再認識

市中心部から車で1時間、北かる音もすごかった」と振り返る。山あいにある清照由苑へ向かう道路や川岸は、今も復旧工事が続いている。現在、被災したワサビ田の復旧と、改植が必要となった園地にツバキを植える計画を進めている鈴木さんは「災害は改めて周囲の支えの大きさを感ずるきっかけにもなりました。植えたツバキでツバキ茶を作るなど、お茶の新しい可能性も追求しながら、茶産地を守っていきたい」と話す。

台風15号の襲来に伴い、昨年9月23日夜から24日の明け方にかけて「記録的短時間大雨情報」の発表が相次ぐなど猛烈な雨に見舞われた静岡市。鈴木さんは「あの日の豪雨は本当に経験したことのないもので、自宅前の小さな川は濁流となり、家が揺れ、岩同士が転がってぶつ



「お茶の魅力や効果をもっと多くの人に知ってもらえるようPRしていきたい」と鈴木さん

みどり」を用いて試行錯誤の末、完成させたもので、「目拍子」の名で市内の百貨店などで

販売している。さらに地域に人を呼び込もうと自宅前の馬小屋を改修して茶室兼直売所「摘草庵」を開設。各種イベントにも積極的に出向き、茶のPRと販路拡大に取り組んできた。

復旧作業で家族や親戚とともに大きな支えになったのが、以前農業研修で受け入れた学生たちがボランティアとして駆けつけてくれたこと。また、片付け作業などで茶の直販活動ができなくなり、収入が大きく落ち込んだが、収入保険のつなぎ融資を活用し経営継続につなげた。

鈴木さんは「もしもに備え、22年から収入保険に加入しておいて本当によかったです」と話す。

伝承を守る 夫の遺志も継いで

鈴木さんが就農したのは13年前。「両河内茶」の産地として有名な地域が高齢化などで荒廃していく中、地域の風情を残したいと長女・まゆさんと100年以上続く美家の茶農家を継いだ。「両河内茶を守ろうと頑張っていたとき主人の思いも大切にしたい」と就農と同時に挑戦したが、今や「清照由苑」の看板商品となった抹茶作りだ。経営安定には新商品が必要と考え、茶品種「かなや